



労働法制改悪を許すな

「戦争できる国」づくりなど

暴走政治にストップを

第85回大阪メーデーは、晴天のなか扇町公園（大阪市北区）で開催され、6000人の労働者、府民が参加しました。

集会では、労働者・国民の生活や雇用の危機を打開し、日本を再び「戦争できる国」へと突き進む動きなど、安倍政権や橋下・維新の会による暴走政治にストップをかけることや、国民的・府民的共同のたたかいをすべての職場・地域・学園から強めていくことを誓いあいました。また、府内各地15カ所で地域メーデーが開催され、のべ1万5000人が参加しました。



左から藤坂書記次長、花田執行委員長、雨崎書記長、小泉副委員長

「指定管理者制度」で徳洲会へ移行するもと結成

和泉市立病院労働組合

仕事は、生活は…
不安と苦悩の中での選択

和泉市立病院は、2014年4月1日に運営をこれまでの市直営から医療法人徳洲会による指定管理者制度に移行しました。

病院職員は大きく分けて事務職へ職種変更した者と、市を退職して徳洲会雇用で市立病院に継続勤務する者に分かれましたが、賃金・労働条件も大きな変更を伴い、仕事も生活も不安と苦悩の中での選択を迫られ、指定管理者制度のひどさを痛感しました。

こうした中で和泉市職労・病院支部は、徳洲会への指定管理移行後も市立病院が地域医療の中核として市民・患者のいのちと健康を守るとともに、職員の雇用、賃金・労働条件を守る上で労働組合活動を継続することが必須であるとして、組合員にも働きかけてきました。

そして3月29日に「和泉市立病院労働組合」

「労働組合」を結成し、4月1日に結成通知と団体交渉申し入れをおこないました。

新たな労使関係がスタート
組合員ふやして要求前進を

全国に60以上ある徳洲会病院に労働組合はないとされていたので、徳洲会との労使関係がどうなるのか不安はありました。しかし、回答期限の4月9日までに文書回答があり、4月28日には初の団体交渉を持つことができました。組合事務所を認めないなど回答には問題がありますが、「労働組合活動を妨げる考えはない」との姿勢も示され、新たな労使関係をスタートさせることができました。

今後も紆余曲折はあるとは思いますが、組合員を増やして要求を前進させ、和泉市職労とともに地域住民のいのちと健康を守る市立病院を発展させるために奮闘していきます。



住民のいのち・健康と
職員の雇用、賃金・労働条件を守るには
労働組合の存在が必要だ